

# 学習目標例活用のヒント

## — 子どものつまずきから次の支援に向けて —

作成者：愛知教育大学大学院教育学研究科 発達教育科学専攻 日本語教育領域  
「日本語教育実践研究Ⅱ」受講生：池谷日都美 登倉ひとみ 羽山千尋 武藤理奈

教員：川口直巳

2021年3月

文部科学省は、外国人児童生徒に対する「個別の指導計画」作成の参考資料として、学習目標例を作成し、ホームページ上で公開しています。

しかし、それぞれの学習目標項目例を見ても具体的にイメージできないものもあり、実際にどう指導してよいのかわからないという悩みの声が上がっていました。

そこで今回、学習目標項目例をよりイメージしやすくしようと考えました。私たち「日本語教育実践研究Ⅱ」の受講生は、学校現場における日本語指導が必要な子どもの支援や、年少者、地域、留学生の日本語教育に携わってきました。その経験を生かし、実際の子どもたちの作文から具体例を考え、教員や支援者がその子どもの“今”の力を捉え、現場ですぐに活用できるようにそれぞれ具体例を挙げながら指導法を提案してみました。

この『学習目標例活用のヒント』が、日本語指導が必要な子どもたちへの継続的な支援に役立てば幸いです。



イラスト 武藤理奈

「愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームホームページ」▶  
「教材一覧」▶「その他の教材」▶「学習目標例からダウンロード」

# 書く ステージ2

2	初期指導 (後期)	a	いくつかの片仮名や、馴染みのある片仮名の語を書く。
		b	平仮名や片仮名で、特殊音節（長音、拗音、撥音、促音）を含む単語を書く。
		c	小学校1年で学習する漢字をいくつか書く。 (象形文字や指示文字)
		d	助詞の「は」、「へ」及び「を」を正しく書く。
		e	平仮名や片仮名や基礎的な漢字を使い分けて文を書く。
		f	毎日の生活に関する事柄について、頻度の高い単語や定型表現、基本文型などを使って、連文（2、3文）を書く。（例：3～5行程程度の生活日記など）
		g	自分と関係のあるテーマについて、日常よく使われる語彙や慣れ親しんでいる表現を使って、短い文を書く。

(a) 片仮名表記のものを平仮名で書く。平仮名と片仮名が混ざる。平仮名と片仮名の区別ができていない。似ている文字の区別ができない（ツ／シ、ナ／メ、ソ／ン）  
 じゅーす（ジュース）、ミッキー（ミッキー）、カスターネット（カスターネット）、シリー（ツリー）、ツーシ（シーツ）、ナロソ（メロン）

[a:片仮名表記]  
 外来語や擬音語など片仮名表記する言葉を確認するとよいでしょう。

(b) 促音が抜けたり、拗音を正しく表記できていなかったりする。  
 はっぴゅうかい／はびょうかい（はっぴょうかい）、がんばて（がんばって）、れんしゅ（れんしゅう）、ゲエム（ゲーム）、おとおさん（おとうさん）、あそで（あそんで）

(c) 漢字で数字が書けない。形が崩れており、判読が難しい。

(d) 助詞の「は」「を」「へ」を「わ」「お」「え」と書く。  
 わたしわ（わたしは）、がっこうえ（がっこうへ）、ごはんお（ごはんを）

(e) 文中で平仮名、片仮名を混同して書く。  
 にちようび、サッカーをしました。  
 日よう日、サッカーをしました。

(f) 「～（ます）ました」「～（です）でした」などを正しく用いていない。助詞を省略してしまう。  
 わたし 7じ おきる。ごはん たべるです。 がっこ いきます。  
 わたしは、7じにおきます。ごはんをたべます。がっこうへいきます。

(g) 思いついた単語を羅列する。  
 わたしは おかあさん たんじょうび きのう ケーキたべた。おいしい。  
 わたしのおかあさんは、きのうたんじょうびでした。ケーキをたべました。おいしかったです。

[g:単語の羅列から文へ]  
 下書き用の用紙に思いついたことを書き出させ、その後どのようにつなげるとよいかを助言するとよいでしょう。

# 書く ステージ3

3	教科につながる 初歩的な学習	a	日常使う漢字表記の語彙（教科名、曜日、標識など）を書く。
		b	年齢より下のレベルの漢字を書き順や送り仮名などに注意して書く。
		c	教師が示すモデルにそって、平仮名、片仮名、漢字を使い分けて文章を書く。
		d	学校の行事など経験した事柄について、順序に沿って簡単な構成の文章を書く。
		e	観察したことを記録する簡単な文章を書く。
		f	物語の好きな場面について、簡単な感想を書く。
		g	段落に分けて文章を書く。
		h	支援を得て、書こうとするものの中心を明確にして作文を書く。
		i	句読点、一字下げ、カギ括弧など、表記上のルールに留意して文を書く。
		j	原稿用紙を正しく使って文章を書く。
		k	書いた文を読み返し、教師やクラスメイトの支援を得て、文字や語句の誤りを直す。

- (a) 明日の持ち物を連絡帳に書く際に、漢字を平仮名にして写してしまおう。  
さんす(さんすう, 算数), とよび(どようび, 土曜日)
- (b) 縦線を上から、横線を左から書くなどの基本的な書き方が身につけていない。
- (d) 思いのままに文章を書いており、出来事の順序がバラバラになっている。  
 音楽会すごいきんちょうしました。あとドキドキもしました。ぼくががんばったなと思いました。今までずーとれんしゅうしたけどたのしかったです。またがんばりたいです。  
 音楽会はすごいきんちょうして、ドキドキしました。今までずーとれんしゅうしていたいへんだったけれど、たのしかったです。ぼくはがんばったなと思いました。すごいきんちょうだったとおもいます。これからがんばりたいです。
- (e) 見たものを表す言葉が「大きい」「小さい」などに限られている。  
形容詞(形容動詞)の活用に関りがある。  
 あさがおのつるが大きいになりました。  
 あさがおのつるが長くなりました。
- (f) 気持ちや考えを表す言葉が「いい」「悪い」などに限られている。  
文末が「～でした」になるなど、形容詞(形容動詞)の活用に関りがある。  
限られた語彙の多用が見られる。  
 うれしかったです、悪かったです、いい気持ちがたくさん  
 うれしかったです、恥ずかしかったです、感動した
- (i) 句読点やカギ括弧などが用いられていない。  
 ママがれんしゅうしないでとのおそくなると言いましただからこれからぼくはマラソンのれんしゅうをもっとがんばりたいです。  
 ママが、「れんしゅうをしないで、おそくなる」と言いました。だから、これからぼくは、マラソンのれんしゅうをもっとがんばりたいです。
- (k) 仮名づかいで間違えやすい表記例  
平仮名(わ/ね), 片仮名(メ/ナ), とけえ(とけい), がつき(がつき), かたん(かんとん) しょうじ(しゅうじ), わたしわ(わたしは), 生先(先生), くぢら(くじら), みづぎ(みづぎ)

[b: 漢字]  
2年生の漢字が身につけていない5年生の児童に対し、2年生の漢字を覚えさせようとするのではなく、5年生の教科で使っている漢字を指導するようにしましょう。まずは読めるようにしていくとよいでしょう。

[d: 構成]  
音楽会について書く場合、時間の経過に沿ってどのようなことがあったのか順序だてて書くとういでしょう。その際「何をしたの?」「それから?」など、出来事を順に話せるような声掛けをして、メモを取らせるとよいでしょう。

[e: 語彙]  
観察文は見たままを表現することばの例を挙げるとよいでしょう。普段の会話の中で、言語化するようにしましょう。  
<例> ・色を表すことば: 赤い・青い・白い  
・オノマトペ: ギザギザ・ざらざら・ツルツルなど  
・形を表すことば: 三角・四角・丸など

[e: 文法]  
「大きいになる」が「大きくなる」のように、「～くなる」になることを意識させるとよいでしょう。

[f: 語彙]  
感情を表すことばの例を挙げるとよいでしょう。自分の気持ちに合う絵を選ぶ活動を通し、語彙の導入をしましょう。  
<例> ・すばらしい・うれしい・はらだたい  
・悲しい・くやしい・楽しみだ・きんちょうする  
また、「がんばりたい」などが繰り返されてしまう場合、別のことばの表現を教えるとよいでしょう。

[i: 読みづらいつ記]  
段落始めの一字下げや、句読点、カギ括弧をいつ使うか、作文を書く過程で確認していきましょう。  
また、本人の作文と添削後の作文を見比べて、表記上のルールを守ることで読みやすくなることに気づかせましょう。  
慣れるまで、カギ括弧や一字下げなどを用いた作文例を渡し、真似して書けるようにするとよいでしょう。

[k: 文字や語句の誤り]  
例に記したのは、日本人の低学年の子にも見られる誤用例です。低学年の場合は誤用例をクラス全体に提示し、どこが間違っているのか子どもたちに気づかせる活動を取り入れるとよいでしょう。

[h: 支援の方法]  
子どもの伝えたいことを的確に伝えられる言葉を対話を通して見つけてあげられるとよいでしょう。  
 何になりたい?  
 サッカー  
 サッカーせんしゅなんだね。  
 サッカーせんしゅ、〇×〇×  
 ああ、〇×〇×のようなサッカー選手になりたいんだね。

[g: 支援の方法]  
右の「がんばっていること」について書かれている作文例を見ながら、一字下げになっている箇所を見つけさせましょう。それぞれの段落にどんなことが書かれているかを対話で確認しましょう。作文例に合わせて、一段落ごとに自分で作文を書かせましょう。

[j: 原稿用紙の使い方]  
基本的には国語の学習内容にしたがっておこないましょう。  
書き方の注意  
1行目・・・3マス空けて題名を書きます。  
2行目・・・学年、組、名前を書きます。  
3行目・・・1マス空けて本文を書きます。  
☆会話文はカギ括弧で書きます。  
☆段落ごとに改行します。

す	と	な	い	「	を	か	し	算	ぼ	ぼ	が	が
こ	こ	ん	ん	こ	ら	ら	よ	数	く	く	が	が
れ	ん	た	ん	こ	は	は	う	で	は	が	が	が
か	ん	た	ん	こ	ぼ	ぼ	ら	す	は	が	が	が
ら	の	か	ん	こ	く	く	毎		は	が	が	が
も	の	ら	ん	こ	は	は	日		は	が	が	が
の	テ	サ	ッ	こ	が	が	練		は	が	が	が
ス	カ	カ	こ	苦	苦	習		は	が	が	が	
ス	ト	ー	ー	こ	手	手	を		は	が	が	が
ト	で	計	算	こ	で	で	し		は	が	が	が
と	百	算	ド	こ	す	す	て		は	が	が	が
算	点	を	リ	こ	テ	テ	い		は	が	が	が
を	と	り	ル	こ	ス	ス	ま		は	が	が	が
が	ん	ば	を	こ	で	で	す		は	が	が	が
ん	ば	り	や	こ	き	き	わ		は	が	が	が
ば	り	たい	っ	こ	な	な	る		は	が	が	が
り	たい	です	て	こ	い	い	い		は	が	が	が
ます	ま	い	い	こ	点	点	だ		は	が	が	が
す	。			こ					は	が	が	が



# 書く ステージ4

3	教科につながる 初歩的な学習	a	基本的構成(部首・音訓・筆順・送り仮名など)を理解して、学年よりやや低いレベルの漢字を使って書く。
		b	興味のある課題に対して、日常語彙を使って作文を書く。
		c	書き言葉や教科用語を使って文章を書く。
		d	会話文、書き出しやしめくくり、簡単な喩えなど表現の工夫をしながら書く。
		e	誤用はあるが、さまざまな構成の文を使って、意味の通じる文章を書く。
		f	意味のまとまりのある段落に分けて文章を書く。
		g	書いた文章を読み返し、自分で間違いなどに気づき、ある程度推敲をする。(小学校中・高学年以上の場合)

[g:推敲]

自分で間違いを直すことができるようになるには、書いたものを自分自身で読み返すことが大切です。間違えている箇所が分からない場合は、その部分に教師が線を引くなどして、間違えている箇所を示し、自分で直すようにさせましょう。

(b) 日常生活でよく使われる語彙が身につけていない。

○○さんは病気であまり学校に行けなかったけど、がんばって高校を終わって、大学に行って、それも終わって高校の先生になってすごいいました。だからぼくもがんばって勉強してって点が悪くならないようにしていきたいです。

今日は、○○さんのお話を聞きました。○○さんは病気であまり高校に行けなかったけれど、がんばって卒業したそうです。それから大学にいき、卒業して、高校の先生になったそうです。ぼくもがんばって成績が悪くならないようにしたいです。そして、高校にいけるようにしたいです。

[a:漢字]

ノートや提出された作文などを観察して、どれぐらいの学年の漢字まで書いているのかを観察しましょう。学年相応の漢字が書けないかもしれませんが、その場合でも「〇年生の漢字からやり直す」のではなく、該当学年相応の漢字も並行して少しでも書けるようにしましょう。

[b:日常語彙]

「卒業する」「成績」などの日常生活で使われる語彙に慣れさせていきましょう。下書きの段階で、内容に沿って段落に分けると読みやすい文章になることをアドバイスするとよいでしょう。

(c) 話し言葉や略語を多用している。

計ドの三角はめっちゃむずい。

計算ドリルの図形はとともむずかしいです。

たし算2はまだできないけど、がんばてる。

くり上がりのあるたし算はまだできないけれど、がんばっています。

[c:話し言葉の多用]

話し言葉をそのまま書いてしまうことが多くあるので、話し言葉と書き言葉の違いがあることに気づかせるとよいでしょう。また、「授業で勉強したことばを覚えているかな?」というように、授業の中で使われたことばを思い出させて使用を促すとよいでしょう。

(d) 書き出しに前置きがなく、急である。  
作文を書くといつも似たような文章になる。

すごくきんちょうしました。きんちょうしてドキドキしたけど、6年生でさいごの運動会だから、がんばりました。パパとママががんばれとってくれました。うれしかったです。

昨日は運動会でした。すごくきんちょうして、石みたいにかたまってしまいました。でも、6年生でさいごの運動会だから、がんばりました。お父さんとお母さんが「がんばれー!」とってくれました。うれしかったです。

[d:表現]

多様な表現を使うことで、より魅力的な文章になります。友だちが書いた良い作文例を読み、カギ括弧で示されている会話文や、「～みたいな」「～のような」などの比喩表現を探す活動をするとういでしょう。また、作文の過程で「なんと言っていたの?」、「～と似ているね」、「～みたいだね」など声掛けをおこなうことで、これらの表現を使えるようにするとよいでしょう。

(e, f) 文と文のつながりが不明確であり、まとまりのない文章になっている。

今日のAさんの話ではいろいろなことを学びました。おもしろいことをたくさん言って、おもしろかったです。悲しいことがあってもあきらめないのがすごいなと思いました。Aさんの話でたくさん笑いました。これから私もAさんのようにあきらめないでがんばりたいです。

今日のAさんの話では、いろいろなことを学びました。例えば、あきらめないことが大事だと学びました。Aさんは悲しいことがあってもあきらめなかったそうです。その話を聞いてすごいなと思いました。

学んだこと

また、Aさんはおもしろいことをたくさん言って、私はたくさん笑いました。例えば、Aさんが失敗したことです。

お話のよかったところ

これから私もAさんのようにあきらめないで、そしていつも笑顔でがんばりたいです。

これから頑張りたいこと

[e, f:文と文のつながりと全体のまとまり]  
まず、書く前段階として、作文のテーマについて「何を学んだの?」「その時どう思った?」というように声掛けをし、事柄の描写だけでなく、その時の感情なども入れて詳しく書くように促すとよいでしょう。

その次に、「全体のまとまり」「段落」「文と文のつながり」を考えましょう。

モデル作文を使って、内容が変わっているところがどこか、対話を通して確認しながら段落分けをしましょう。その後、実際に子どもが書いた作文を見直させ、内容ごとにまとめる作業を一緒にするとよいでしょう。

文と文のつながりについては、「さらに」「そして」「また」などの接続表現や、「例えば」などの具体例を述べる表現を使うことで、前後の文どうしに関係をもたせられるようにするとよいでしょう。

文字や句語の誤用があったとしても、ここでは全体のまとまりが分かるように、段落や文と文のつながりを理解させましょう。

[f:段落]

左の例のように、「学んだこと」、「お話のよかったところ」、「これから頑張りたいこと」といった内容ごとのまとまりにわけて段落にするとよいでしょう。